

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	火災現場付近走行中、子供と接触しそうになった事例
3. 体験した事例の中心的要素	消防車が火災現場付近を走行中、路地から急に飛び出してきた子供と接触しそうになつたもので、現場付近においては、火煙等に気を取られることなく、「現場到着までは安全運転」と気を引き締めること。また、隊長、隊員は機関員にまかせずに、周囲の状況に気を配り、危険を察知したら即座に知らせること。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none">子供は好奇心から消防車のサイレンにつられて、夢中で飛び出してきたため。隊長が「火煙確認」と叫んだため、全員が一瞬火点を見てしまい、周囲の状況確認が疎かになった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 20 年 6 月 6 日	午前 8 時頃
2. 発生した当時の天候	曇	
3. 発生した活動現場	屋外：狭隘で見通しが悪い場所	
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	交通事故	
7. 事例体験時の活動	火災、出動途上 []	
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか		
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに 1, 2 回程度体験している。	

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[55]歳、 勤続年数[35]年、 現場経験年数[35] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[56]歳、 勤続年数[37]年、 現場経験年数[36]年、 階級[司令]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [車長]
○当事者 C	年齢[50]歳、 勤続年数[29]年、 現場経験年数[29]年、 階級[消防士]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	飛び出してきた子供に気付き、急ブレーキを掛け約2 m手前で停止した。	
経過 2	B	子供に気付き、「止まれ、ブレーキ」と機関員に叫んだ	
経過 3	C	「人、あぶない」と叫んだ。	
経過 4	B	子供は、急停車したことに驚き、走り去ったので、機関員に現場へ急行するよう命令した。	車中から、子供に接触していないことと確認した。
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- 早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 はい
 - 被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 いいえ
 - 周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 はい
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 いいえ
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

火災現場付近走行中、子供と接触しそうになった事例

